

Title	地域主権の国づくり、地方議員の役割を考える実施結果：アンケート集計結果の概要（総合研究所 News：2010 年度聖学院ポリシーカレッジ総括シンポジウム）
Author(s)	聖学院大学総合研究所
Citation	聖学院大学総合研究所 Newsletter, Vol.20-No.5 : 18-21
URL	http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/reps/modules/xoonips/detail.php?item_id=2891
Rights	

聖学院学術情報発信システム : SERVE

SEigakuin Repository for academic archiVE

総合研究所 News

2010年度 聖学院ポリシーカレッジ総括シンポジウム 地域主権の国づくり、地方議員の役割を考える 実施結果—アンケート集計結果の概要—

地域のことは、地域で決める—地方自治の姿はそこにある。だからその制度環境を整えるために国、地方とも分権改革を進めている。だが、肝心の自治体における政治機関がうまく機能していない。とくに「首長」と「議会」の関係がうまくいかず、本来想定した政治機能を発揮できていないのである。

たとえば、①極端な首長優位で翼賛的に議会がオール与党意識で支える、逆に②議会極端なオール野党意識で首長の提案を否決する、③首長が議会を召集せず、何でも自ら専決処分で決める、④首長の政治公約を強引に通すため、賛同しない議会を市民を巻き込み解散に追い込みむりコール運動の先頭に立つ—等々。

これらを望ましいとみる市民はどれぐらいいるだろうか。

こうしたことを続けても、地域主権国家はできない。国に権限よこせ!財源よこせ!の大合唱を繰り返すことが地方分権改革ではない。自治体が地域の政策づくりに責任を持てる体制整備、つまり政策官庁に脱皮することが第1条件ではなかろうか。それには現状の首長—議会関係を変える必要がある。ついては市民の目線でみて、どう変えたらよいか議論を深めたい。

日時 2010年12月18日(土) 13:30～16:30

場所 大宮ソニックシティビル棟906会議室

【プログラム】

開会挨拶・司会

山本俊明（聖学院大学総合研究所）

リレー講演

「地域主権の国づくりのポイントと地方議員の役割」

金井利之（東京大学大学院教授）

「実際の首長、議員体験から言える望ましい首長と議会の関係」

穂坂邦夫（前志木市長、NPO法人地方自立政策研究所理事長）

「各地で起きている議会と首長の対立構造」

青山彰久（読売新聞東京本社編集委員）

パネルディスカッション

金井利之（前掲）

穂坂邦夫（前掲）

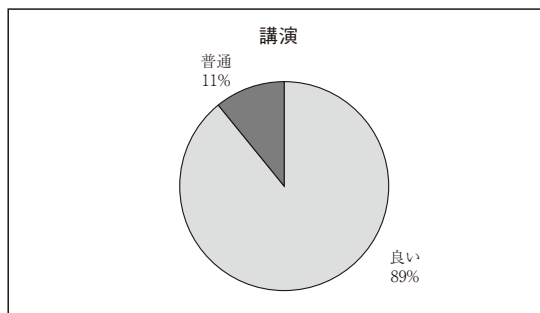
青山彰久（前掲）

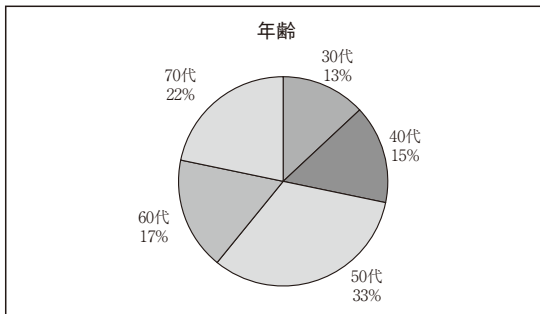
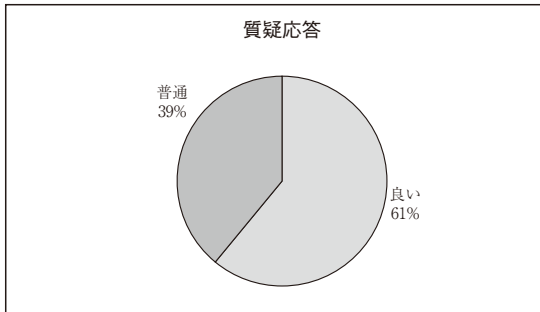
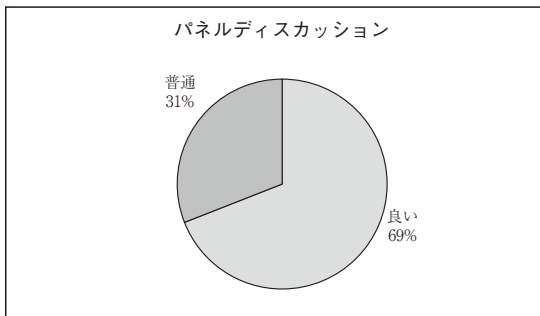
コーディネータ

佐々木信夫（聖学院大学総合研究所客員教授、中央大学大学院教授）

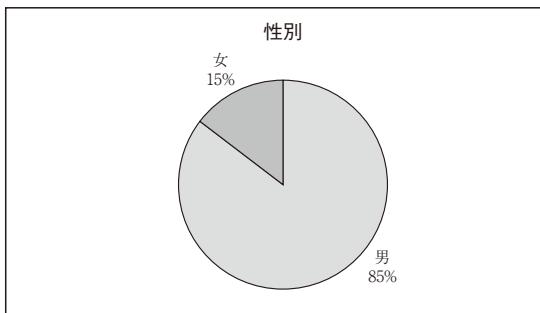
【結果の概要】

- ・参加者は72名。内、アンケート回答者は46名だった。
- ・講演について約9割から、パネルディスカッションは約7割から「良い」という評価を得た。
- ・自由意見として、「有益な内容のシンポジウムだった」「時間の調節が必要」「有意義な内容だった」

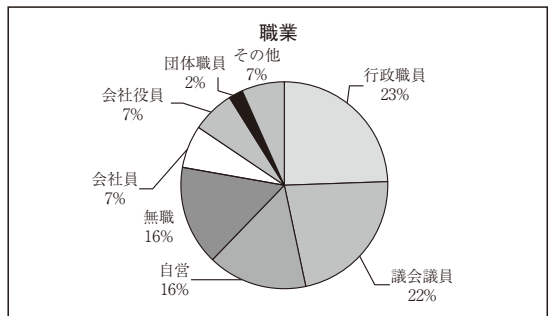




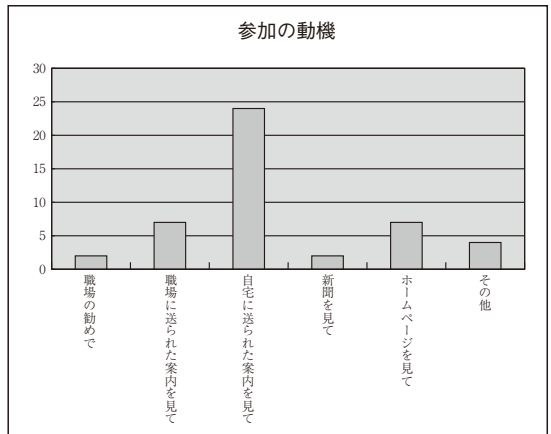
・回答者のプロフィールとして、年齢は50代が最も多く33%で、次は70代の22%であったが、あらゆる年齢層からの参加があった。



・性別は、男性が85%を占めた。



*職業別には、「行政職員」と「議会議員」が多く、次に「自営」「無職」であった。



*参加の動機として、「自宅に送られた案内を見て」が最も多く、次に「職場に送られた案内を見て」「ホームページを見て」であった。「その他」の内容として、「ポリシーカレッジ受講者」「知人の紹介」など。

自由意見

・地域主体の時代に入りつつあるが、市民の議会に対する関心は薄い。これを如何にして高める



東京大学大学院教授 金井利之氏



前志木市長 穂坂邦夫氏

か、がポイント!議員も市民も活動しなければならないのでしょ

- ・住民といっても、私が知る方は、ほとんど議会の様子をご存知ないわけです。それでも最後には、住民自治、住民の意見、判断という事になってしまうことに、もっと住民自身にも危機感が必要だと思います。

- ・穂坂前市長の現場主義のお話で良く理解でき、わかりやすかった。

金井先生、地方主権改善（改革）についても分かりやすかった。もう少し時間が欲しいと思った。

青山先生、分権改革等→本音の話で大変良い。ゆっくり話を聞きたい。

- ・穂坂氏のお話は実際の現場で経験をされているので、わかりやすく理解できました。穂坂先生、県政調査費問題については、やはり、監視が大切だとのお話でした。10/8に県政調査について住民監査請求を提出しましたが、監査委員が知事と議会の肩をもつ結果でした。監査制度の問



読売新聞東京本社編集委員 青山彰久氏

題も大きいと感じています。(監査結果は11/26の県報定例号にあります)

- ・分権改革を進めるため、行政、民間を巻き込んだ基本的な条例をつくって推進していく制度を設けて検討会をやってはどうでしょうか。
- ・質疑応答を長くするための、時間調整が必要だと感じました。首長と議会、地方自治はあまり公開講座がないため、面白く聞かせていただきました。議員として役立てていきたいと思えます。ありがとうございました。
- ・今回のポリシーカレッジは大変有意義でした。しかし、地方議員の方の参加が少なく、机上（学者・有職者）の方々と実践の中で活動している議員の対処にギャップを感じています。今後もポリシーカレッジを継続されるように期待します。
- ・地方議員は勉強しなすぎ。住民の意見も自分のまわりの方しか聞いていない。頑張っている議員も少なからずいるので、その様な方々に光を当ててもらいたい。パフォーマンス議会も大いに改革が必要。
- ・行政職員ですが、議会、行政委員会のあり方などについて、大変参考になる意見をうかがえ、感謝しております。
- ・しっかりした内容のものをうかがえてよかったです。有料でもよいのでは?
- ・パネリストも適切であり、参考になった。今後も講師を厳選して続けて欲しいと思えます。
- ・講師の方がそれぞれに特徴と個性があって、有益なシンポジウムでした。ありがとうございました。



パネルディスカッションで意見交換が行われた

- ・当シンポは欲張りすぎて最初のリレー講演、3名は時間の制約もあって中身が浅い。基調講演はひとりじっくり話をし、パネルディスカッションでしっかり議論をし、質問に答えて欲しい。
- ・この様なシンポジウムを他の大学、団体などと連携して、埼玉県以外の所でやって欲しい。(地方主権の問題に火をつけるため)
- ・地方主権改革に対応できる職員の能力向上をどうすれば出来るのか?のシンポジウムを希望。
- ・大変勉強になりました。貴重な機会をいただき、ありがとうございました。
- ・参加者との交流が少ないのではないか。議会改革をテーマにしませんか。
- ・三権分立の原則(スクラム連携)透明性確保。
- ・今回マスコミのパネリストがパネルディスカッションに加わったのは、良かった。
- ・質疑応答の時間がもう少しあると、さらに良かったと思う。
- ・佐々木先生にも発言できる時間を確保してほしい。
- ・真摯な話が聞けて非常に有意義でした。
- ・勉強になりました。勉強不足であることに反省です。
- ・大変有意義な内容でした。ありがとうございました。
- ・大変有意義なシンポジウムでした。
- ・次回も是非参加したい。



毎年聴きに來ている参加者も多い



72名の参加者があった